

「湾生」たちの望郷の想いに、台湾全土で16万の人たちが笑い、涙した。歴史に翻弄された人々の運命を描く傑作ドキュメンタリー映画、いよいよ日本公開！

敗戦によって台湾から強制送還された日本人は、軍人・軍属を含め50万人近かったと言います。20万人の「湾生」と言われる日本人にとって、台湾は紛れもなく大切な「故郷」でした。しかし、敗戦という歴史の転換によって故郷から引き裂かれ、未知の祖国・日本へ戻らされたのです。本作は、そんな「湾生」たちの望郷の念をすくい取った台湾のドキュメンタリー映画です。台湾で劇場に足を運んだ人たちは日本統治時代を知らない若者たちが多く、「湾生」たちの台湾に寄せる望郷の念に感動し、「湾生も自分たちと同じなのだ」と涙を流す観客も少なくなかったといえます。2015年の全アジアで話題をさらった「湾生回家」、いよいよ日本公開です。



湾生とは
戦前の台湾で生まれ育った約20万人の日本人を指す言葉です。下関条約の締結された1895年から1945年までの50年間、台湾は日本に統治されていました。当時、日本から公務員や企業の駐在員が台湾へと海を渡り、農業従事者も移民としてその地を踏みました。そして、彼らのほとんどが敗戦後、中華民国政府の方針によって日本本土に強制送還されました。引揚者が持ち出しを許されたのは、一人あたり現金1,000円(当時)とわずかな食糧、リュックサック2つ分の必需品だけでした。



わが故郷、わが台湾——
敗戦後、この日本に戻っても、いつも心は台湾にあった。

戦争の渦に巻き込まれ、生まれた土地を離れざるをえなかった彼らが、「湾生」です。彼らは、自分たちの存在が歴史の闇に埋もれ、忘れ去られようとしているなか、台湾への深い思いを語り続けます。こみ上げる失望、喪失感、涙と悔恨。歳月の壁と闘いながら、家族や友人たちを、ともに過ごした場所を、心に留めおくために幾度となく台湾に向かいます。本作は、登場する「湾生」たちそれぞれの物語だけではなく、「湾生」の人々の物語でもあります。身を焦がすような台湾への愛から生まれた作品であり、時間と空間を超えた人間同士の友情と家族の絆の物語です。残された時間のなかで「湾生」たちが語る言葉の端々から、台湾に対する信頼と絆、愛、希望、そして平和への願いが、私たちの心の中に静かに確実に響いてきます。

湾生回家
わんせいいか
Wansei Back Home
www.wansei.com

エグゼクティブプロデューサー：チェン・シュエンルー(陳宣儒 日本名：田中實加) / 出演：富永勝 家倉多恵子 清水一也 松本治盛 竹中信子 片山清子 他 / 監督：ホアン・ミンチエン(黃銘正) / 後援：台北駐日経済文化代表処 協力：一般社団法人台湾協会 東京台湾の会 / 協賛：CHINA AIRLINES ワンハイライズ株式会社 / 提供：マクザム ワコー 太秦 / 配給：太秦 2015年/台湾/DCP/ドキュメンタリー/111分 原題：湾生回家 ©田澤文化有限公司 46854



台湾を離れなければならなかった「湾生」たち
彼らを暖かく迎え入れた台湾の、こころ
戦後70年、日台の絆の原点がよみがえる

湾生 回家

わんせいいか

Wansei Back Home



エグゼクティブプロデューサー：チェン・シュエンルー(陳宣儒/日本名：田中實加)
出演：富永勝 家倉多恵子 清水一也 松本治盛 竹中信子 片山清子 他
監督：ホアン・ミンチエン(黃銘正)
「湾生」とは、1945年までの50年間、日本統治下の台湾で生まれた日本人をさします。



www.wansei.com
プロデューサー：ファン・ジェンヨウ(范健祐)、内藤諭 / ナレーター：クーイーチェン(柯一正) / 声の出演：本間峻理、ヤン・ホエイルー(楊惠碩) / 撮影：リン・ウェンイー(林文儀)
チェン・ミンダー(陳明德)、タン・ヒョンソン(陳香松) / 編集：ホアン・イーリン(黃懿齡)、クオ・ユーニン(郭宇寧) / 後援：台北駐日経済文化代表処 / 協力：一般社団法人台湾協会 東京台湾の会
協賛：CHINA AIRLINES ワンハイライズ株式会社 / 提供：マクザム ワコー 太秦 / 配給：太秦 2015年/台湾/DCP/ドキュメンタリー/111分 原題：湾生回家 ©田澤文化有限公司 46854